

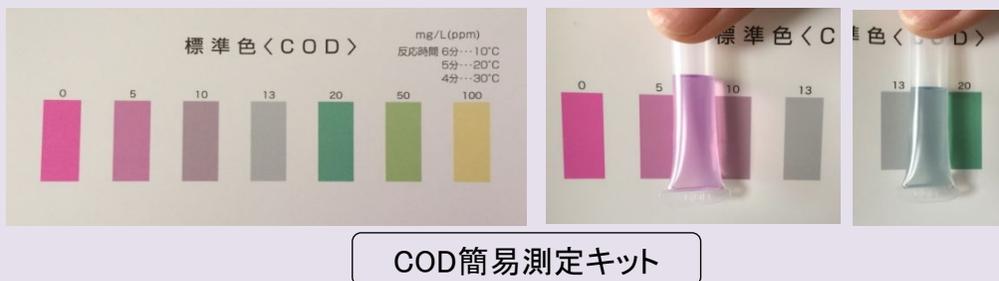
【全体概要】

水稲は、その窒素吸収量の60～70%を土壌有機物の分解に伴い発現する地力窒素に依存している。このため、地力窒素を把握して適正な施肥を行うことは、水稲の生産性向上につながる。農研機構が新たに開発した水田土壌可給態窒素の迅速評価法の本県水田土壌への適応性を明らかにするとともに、産地の意見を反映した評価法を確立する。

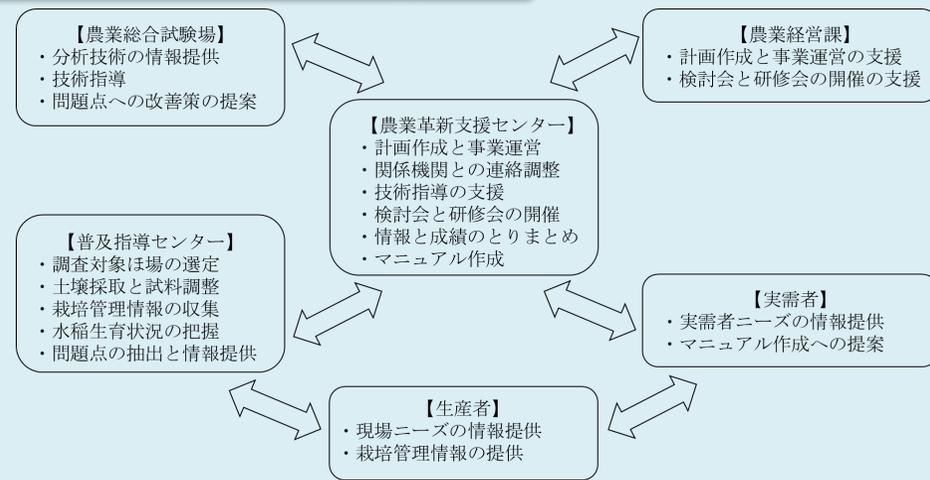
新品種・新技術等の概要

【水田土壌可給態窒素の迅速評価法】

乾土に蒸留水を加えて25℃で1時間振とう後、ろ過し、ろ液の有機態炭素量(TOC)か化学的酸素消費量(COD)を測定する。測定値から可給態窒素量を推定し、地力窒素を評価する。



実施体制図



主な取組内容

- 県内水田土壌への新たな評価法の適応性調査 (R1:184地点、R2:87地点)
- 分析研修会、情報交換会 (R1:3回、R2:7回)
- 水田土壌診断の事例調査(群馬県)
- 新たな評価法の活用事例調査(富山県)
- 「地力窒素の迅速評価法を活用した水稲施肥診断マニュアル」の作成とアウトリーチング活動 (R2:4回)

実績と今後の展開

- 県内水田のうち、以下の土壌統群で本評価法の適応性が確認された。
【TOC測定法】中粗粒灰色低地土・灰褐色系:25点、中粗粒灰色低地土・灰色系:35点、細粒灰色低地土・灰褐色系:10点
【COD測定法】中粗粒灰色低地土・灰褐色系:25点、中粗粒強グライ土:15点
- 「地力窒素の迅速評価法を活用した水稲施肥診断マニュアル」を作成した。担当普及指導員を通じて今後施肥指導に活用される見込みである。

